



子どものためのスペシャル・コンサート ～ オトノトビラ～



2023年10月14日(土)、分厚い雲に覆われた灰色の空を突き破るような、パワフルなピアノとクラリネットの音色が講堂中に響き渡った「子どものためのスペシャル・コンサート～オトノトビラ～」(14時開演 公演時間60分、来場者数・子ども108名、大人178名計286名)。

1台4手連弾というプレイスタイルを持つピアノデュオ「レ・フレール」として活躍する傍ら、ライフワークとして病院や福祉施設への訪問演奏や、バリアフリーコンサートをプロデュースする斎藤守也さん(ピアノ)をゲストに迎え、アウトリーチ・センター長である稲本渡先生(クラリネット)との共演で行われた本公演の模様をお届けする。

暗くなった会場に突如鳴り響くクラリネットの音色。会場後方から登場した稲本先生による〈情熱大陸〉(葉加瀬 太郎)で、コンサートが煌びやかにスタートした。(ピアノ高橋優佳、アウトリーチ履修21期生)

「私の兄が作曲し、私自身もレコーディングに参加しました」という曲紹介に続いて演奏したのは、NHK大河ドラマ『どうする家康』のメインテーマ

〈暁の空〉(稲本 響)。吹き抜ける風を感じさせるクラリネットの爽やかな音色と躍動感のあるピアノは、まるで大自然の中を疾走しているかのように錯覚させた。

そして、稲本先生ソロパート最後の曲〈リゴレット・ファンタジー〉(L.バッシ)では、畳み掛けるような超絶技巧や、次々と移り変わっていく旋律とクラリネットのさまざまな音色に、8分半を超える大曲にも関わらず、会場中がしんと静まり集中している様子が印象的だった。



続いて、稲本先生からの紹介を受けて斎藤さんが登場し、そのままピアノに向かい1曲目〈FLOW〉(斎藤 守也)を演奏。曲名の通り、繊細かつ壮大に渦を巻いて流れ出るような、澄んだ

ピアノの音色に、まるで夢の中を漂っているような心地がした。

自己紹介後の2曲目は、映画『パイレーツ・オブ・カリビアン』より〈彼こそが海賊〉(K.バデルト、G.ザネリ&H.ジマー)。1曲目と打って変わって、わくわくするような低音部の始まりに、ぐっと客席が惹き込まれるのが分かった。まるでオーケストラの演奏を聴いているかのようにダイナミックに奏でられるテーマと、中盤の繊細に美しく演奏されるメロディとの対比が、より一層この音楽の壮大さを際立てていた。

拍手が鳴りやむのを待たず、3曲目アニメ『ルパン三世』より〈ルパン三世のテーマ〉(大野 雄二)に突入。前の曲の拍手がそのまま手拍子へと自然に移行したのが、とても印象的だった。斎藤さんのピアノに合わせて客席の手拍子の強弱が変化していく一体感は、見ていて興味深く、昨年度の授業内で斎藤さんが話していた「音楽を通じたコミュニケーション」を実際に肌で感じる事ができた。



4曲目は、斎藤さんがプロデュースするバリアフリーコンサート「小さき花の音楽会」のテーマ曲〈LITTLE LIFE ～小さき花の詩(うた)～〉(斎藤守也)。

このコンサートを始めるきっかけは、生後すぐにNICU(新生児集中治療室)に入られた斎藤さんのご子息。それ以来、斎藤さんは病院や福祉施設への訪問演奏を中心に活動していたが、活動を続けるうちに「病気や障がいがあるとコンサートに行けないと諦めていたり、動き回って迷惑がかかってしまうと思っていたりする方が多いことに気づい

た。でも、僕らがもう少し寄り添えたらコンサートに参加できる子どもたちがいっぱいいると思った」ことから、コンサートのプロデュースを始めたそう。来場者には「動いていいよ」「会場の出入りは自由だよ」と声掛けをしているそうだ。

「病気や障がいと闘う子どもたちと、道端に力強く咲く小さな花の姿を重ねて、小さき花の詩(うた)と名付けました。また LITTLE LIFE には、小さな命、という意味はもちろん、些細な日常、誰の目に触れることもない、評価されることもないけれどすごく大事なもの…そんな意味も込めました。祈りの気持ちを込めて作った曲です。今日も祈りと感謝の気持ちを込めて演奏します。」



そんな曲紹介に続いて演奏されたこの曲は、柔らかく繊細な、澄んだピアノの音色で講堂を包み込んだ。この曲について、アンケートでも「思いやりのある温かい優しさに触れることができた。」「とても気持ちが慰められた。自分の子どもも病気など、生きているといろいろあるが、本当に気持ちが救われた。」などという声が聞かれた。

続いて演奏されたのはディズニー楽曲のメドレーである〈クラブ・イクスピアリ〉(レ・フレール編曲)。次々と登場する耳馴染みのあるメロディに、親子で楽しそうに言葉を交わしている様子が印象的だった。

そして斎藤さんに呼ばれ、稲本先生が再び舞台に登場。いよいよ共演パートの始まりだ。

共演パート 1 曲目は、先程に引き続き、ディズニーの楽曲である〈ディズニーランド®・メドレー〉

(斎藤守也 編曲)。曲始まりの〈メインストリート・エレクトリカルパレード〉のテーマがクラリネットで演奏されると、本当にディズニーランドに来たかのようなワクワク感があり、〈クラブ・イクスピアリ〉と同様に講堂は大きな手拍子に包まれた。

そこから、斎藤さんのオリジナル曲である〈グローリー・モーメント〉(宝探し)を 2 曲続けて演奏。〈グローリー・モーメント〉(斎藤 守也)は、タイトル通りの輝かしいクラリネットのメロディと、そのメロディを一層輝かせるように演奏されるピアノが合わさって、会場の集中度がグッと上がった。〈宝探し〉(斎藤 守也)は、おそらく客席の殆どが知らない曲だっただろうが、自然に手拍子が沸き起こり、小さな男の子が思わず立って踊り出した様子から、斎藤さんの音楽やリズムが持つ聴き手への影響力の大きさを改めて感じさせられた。



そして、本公演最後の曲は、伸びやかなクラリネットのメロディと、力強く華やかなピアノで演奏される〈エンドロール〉(斎藤 守也)。演奏が終わると会場は大きな拍手に包まれ、自然と会場からはアンコールを求める拍手へ。

アンコールでは、〈LITTLE LIFE ~小さき花の詩(うた)~〉(斎藤 守也)と、〈On y va !〉(斎藤 守也)をクラリネットとの共演で演奏。

先にピアノソロで演奏された〈LITTLE LIFE ~小さき花の詩(うた)~〉は、クラリネットの木管楽器ならではの柔らかな音色が加わることで、この曲の持つ優しさ、温かさといった面がより引き出

されていた。

そして、最終曲の〈On y va !〉では、この日 1 番の会場中が一体となった大きな手拍子から、客席の、今日の前で展開されている音楽への高揚感と熱量を肌で感じた。

終演後の客席に広がる、開演前とは異なる熱のこもったざわめきに、音楽には人の心を開く力があるのだということを改めて実感させられた公演だった。
(櫻本 麻衣・記)



寄附のご報告

今回のコンサートでは終演後ロビーにて、斎藤さんと関わりの深い「神奈川県立こども医療センター」の基金である「かながわ県立病院小児医療基金」への募金を行いました。

皆さま方からのご協力をいただきました結果、100,058 円もの寄附が集まりました。皆さまのご協力に心より感謝いたします。



齋藤守也さんに聞く「演奏家としての自信とその軸」

2024年1月12日(金)1限目、先のスペシャル・コンサートに出演していただいた齋藤守也さんを改めてゲストティーチャーとして迎え、zoomで講義を行った。

講義では、実際に齋藤さんが訪問演奏をした際のプログラムを基に、プログラムの組み方や子どもたちを惹きつけるアレンジ方法など、実例を織り交ぜながらご紹介いただいた。

そんな中、最後の質問コーナーでの回答「演奏家としての自信」についてのお話がとても印象的だったのでレポートしてみたいと思う。

「私は自分の音楽に自信がないのですが…」と前置きした学生から、「演奏家として活動するには、自分の音楽を評価していないと活動していくことは難しいと思うのですが、自分のことをどんな風に思って演奏家として活動されているのか、マインドの部分を教えていただきたいです」という質問が投げかけられた。

それに対し齋藤さんは「今自信がないと仰っていたけれど、そんなことはないと思う。自覚として自信がないと思っているから、さらに自信がなくなっていくような演奏や喋り方をしてしまうだけで、本当の意味での自信はちゃんと持っていると思います。」と笑顔で返した。

「人の意見や色々なことで自信を失くすことは、もちろん僕にもあります。演奏していて厳しいことを言われたり、今の時代だと SNS を覗けば恐ろしいことが書かれてあったり、自信を失くす要素なんていっぱいある。でもそういう時に向かなきゃいけないのは自分の内側ですよ。自分の中で一番大事なものを1つだけ決めておく。たとえば、僕の場合だったら音楽を通して子どもたちやお客さんとコミュニケーションを取ること。周りの言葉に惑わされると

どんどん自信を失くしていってしまうので、自分にとって1番大切なものができていれば OK、という風にしていけないと、この世界は結構大変な世界だなと思っています。」

齋藤さんはヨーロッパ留学中、堂々として強気なヨーロッパ人のピアニストたちに囲まれて、質問をした学生と同じように感じていた時期があったそうだ。

「自信ありげな人に惑わされることもあるし、彼らのように振舞わなければいけないのだろうか、と悩むことだってある。でも、彼らに自信があるかどうか本当のところはわからない。虚勢の場合もあるし、表面的な自信は簡単に崩れてしまうもの。「私は自信がない」と素直に言えることは、実はすごく強いことなのだと思います。」

「私はこれが好き、これが楽しい」と心が自然と踊り出す、生き生きする瞬間はどなかの、演奏をするとき自分が大切にしたいことは何なのかを、社会に出る前に1度自分の内側に問いかけてみる。それは、演奏家として自分なりの軸を見つけるための1つのきっかけとなるのではないだろうか。

音楽という答えのない世界で、自分自身を見失わないために齋藤さんが培ってこられたスタンスを垣間見ることのできた、とても貴重な機会だった。
(櫻本 麻衣・記)



子どものためのクリスマス・コンサート ～ Bone ボヤージュとクリスマスの旅～



「子どものためのクリスマス・コンサート～ Bone ボヤージュとクリスマスの旅～トロンボーンって知ってる？」(子どものためのコンサート・シリーズ第 66 回)を、12 月 9 日(土)に本学講堂で開催しました。(第1部 11 時開演、第2部 15 時半開演、各 60 分、来場者数・第1部 509 名/第2部 280 名、計 789 名)。

出演は鶴房采花(アウトリーチ履修 11 期生/トロンボーン)、吉田梨絵(同 11 期生/編曲、トロンボーン)、松尾璃奈(編曲・ピアノ)、別所香穂(声楽)、田上優希(同 21 期生/トロンボーン)、龍咲良(本学 3 年生/トロンボーン)、北野純怜(本学 2 年生/トロンボーン)の、卒業生と現役の学生という多岐に渡る 7 名のメンバーで結成しました。

トロンボーンを主役にした演奏会を開催したいと思い今回のコンサートを企画しました。子どもたちにトロンボーンの構造、歴史、役割、音色を知ってもらい、学部生と共にアンサンブルを通して音楽的な交流ができるのもよい経験でした。

私は卒業後、吉田梨絵さんと松尾璃奈さんと同アウトリーチ履修生 11 期生の藤井美波さん(旧姓)と 4 人でアウトリーチ活動やパーティー

での演奏など様々な演奏の場に出演しました。2014 年度の「子どものためスペシャル・コンサート」では、トロンボーンをテーマに公演を行いました。演奏活動をしていく中で、吉田さんと松尾さんの編曲の素晴らしさを多くのお客様に伝えて参りました。

吉田さんはミュージック・クリエイション専攻ですがトロンボーンも演奏するため、トロンボーンの良さを生かした選曲と編曲が特徴的です。松尾さんはその場の雰囲気、ピアノのアレンジを加えて演奏します。今回の公演では、吉田さんが新たに「ありがとうの花」、「そりすべり」を、松尾さんは「世界中で一番素敵なお誕生日」を編曲しました。



また今回は、声楽の別所香穂さんが歌のお姉さんとしてナレーションと歌を担当しました。

歌のお姉さんを中心に据えて、奏者も歌のお姉さんからの質問に答えるという形式でMCを構成しました。出演者が7人編成だったので、ストーリー仕立てにしていると、子どもたちが登場人物を覚えることが難しいだろうと思いついたような構成にしましたが、終演後「お姉さんのお名前を全員覚えてよ！」というお声を何人かのお客様からいただいたことが嬉しかったです。歌のお姉さんが、各奏者の名前を入れて質問をしていたからだと思います。



アクティビティでは、「ありがとうの花」に手話を入れて会場全体で楽しみました。この曲は元々NHKの子供番組『お母さんといっしょ』の中で手話を用いて歌っています。この曲を選曲した理由は、3歳児の我が子です。我が子は、あまり上手くお話をすることができません。ですが、言葉が話せなくても、自然に手振りで合図をして自分の思いを表現してくれるようになりました。そんな我が子の姿を見て、自分の思いを言葉だけでなく、身体で表現して伝える事は大切だと気づき、この曲を入れたいと考えました。手話の知識がなくても、楽しみながら歌にのせて表現することが手話の醍醐味だと思います。

そして、ワークショップの【スライドホイッスルを作ろう】には特に力を入れました。以前のスペシャル・コンサートで実施し好評だったのですが、角度によって鳴りにくいのが難点でした。我が子と一緒に試行錯誤をし、息を吹くことができれば簡単に鳴らせるよう、色々な場所に補強を加えておくなどの工夫と改良をし

たことで、参加された方々にはとても喜んでもらえました。「もう1つ作りたい！」や「兄弟も誘ってきてもいい？」というお声が嬉しかったです。このワークショップは私たちメンバーが一緒になって実施しました。一緒に仕事を体験したことで、より子どもたちにとってよい思い出になっていけばいいなと思います。



出演者7名という大所帯ならではの苦労もありましたが、それぞれの特色を活かした意欲的な挑戦は、やり切った清々しさがあります。あらためて、挑戦の機会をいただいた母校には感謝の気持ちでいっぱいです。卒業生と在学生の練習日程を「合わせる」、価値観を「合わせる」、合わせるとするのは確かに大切な要素かもしれません。しかし多くの演者との共演では、いかに「折り合い」をつけるかが大切であると学びました。



この度は、素晴らしい経験をさせていただき誠にありがとうございました。今後も子どもたちと一緒に、トロンボーンの面白い音色や温かい音色を探していきたいと思います。

(鶴房 采花・記)

学外アウトリーチ実習

宝塚阪急

8月6日(日)宝塚阪急前特設ステージにて、駅利用者や百貨店のお客様を対象にフルート三重奏のコンサートを行いました(フルート/芦沢梨里沙・倉永真理・廣瀬紀衣 MC/冨田萌絵)。駅や百貨店を利用するお客様に耳を傾けてもらえるように、一度は耳にしたことがある有名なクラシックを中心に選曲しました。

まず初めに、美しいメロディのビゼー作曲の歌劇《カルメン》より〈間奏曲〉を演奏しました。曲が始まるとすぐに親子がステージ前に来て、楽しそうに足踏みをしながらかいてくださる様子を見て私達も元気が出ました。

続いて、暑い夏にぴったりのアラン・メンケン作曲、映画『リトル・マーメイド』より〈アンダー・ザ・シー〉を演奏しました。猛暑日だったので、少しでも夏の雰囲気味わっていただきたい、涼しくなってもらいたい、という気持ちで選曲しました。



次にモーツァルト作曲〈きらきら星変奏曲〉をフルート二重奏で演奏した後、ゴセック作曲〈ガボット〉を演奏しました。どちらも有名な曲なので立ち止まって聴いてくださる方も多く、お客様の反応を近くで感じながら演奏することができました。

続いて本学准教授・八木澤教司先生作曲の〈チョコふえすっ!〉をお届けした後、私達のアウトリーチ活動のお話をしました。ステージ前に置いたチラシ

を手にとって聞いてくださる方が沢山いて、私達の活動や神戸女学院大学に興味を持っていただけたことがとても嬉しかったです。

最後にドビュッシー作曲〈小組曲〉より第3曲メヌエット、第4曲パレエを演奏して、優雅な雰囲気味わっていただきました。演奏が終わると大きな拍手も頂き、達成感を感じました。

今回お客様の反応を近くで感じながら演奏したことで、どういった選曲の時に耳を傾けてもらえるのか、長く聴いてもらうためには演奏やMCにどんな工夫が必要なのかを考える良い機会になりました。

反省点もありますが沢山の人が立ち止まって聴いてくださり、音楽の力を改めて感じました。

(冨田 萌絵・記)



学外アウトリーチ実習

西宮市立浜脇幼稚園

10月19日(木)10時から西宮市立浜脇幼稚園(西宮市宮前町8-22)にて園児対象の「秋の音楽会」(45分)を行いました。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生の芦沢梨里沙(フルート)、金悠雅、富田萌絵、山田詩織(ピアノ)の4名です。



「秋の音楽会」というテーマにそって、食欲、芸術、スポーツの秋に合う選曲をしました。

まず初めに挨拶の意味を込めて E. エルガー作曲〈愛の挨拶〉をフルートとピアノで演奏しました。続いて〈山の音楽家〉での楽器紹介で、曲のメロディをそれぞれの楽器で演奏し、音色や音域の特徴を知ってもらいました。次は今年が東京ディズニーランド開園40周年ということで、レ・フレール編曲〈ディズニーランド®・メドレー〉を連弾で演奏しました。



その後はスポーツの秋にちなんで J. オッフェンバック作曲《天国と地獄》と H. ネットケ作

曲〈クシコス・ポスト〉をそれぞれ4手連弾、6手連弾で演奏しました。私たちが運動会を思い出しながら楽しく弾くことができました。

次は芸術の秋にちなんで普段私たちが専攻しているクラシック曲を3曲演奏しました。1曲目は T. エステン作曲〈人形の夢と目覚め〉で、この曲がお風呂の給湯音に使われていることが多いことから、身近なところにクラシックが使われていることを知ってもらいました。続いてフルートとピアノで B. ゴダール作曲〈3つの小品による組曲〉から〈ワルツ〉、最後に F. リスト作曲〈メフィスト・ワルツ〉を演奏しました。

次は食欲の秋にちなんで、イギリス民謡〈大きな栗の木の下で〉をアクティビティとして取り入れ、強弱や速度に合わせて体を動かしました。中川ひろたか作曲〈世界中のこどもたちが〉でも同様に体を動かしました。次に出演者全員で久石譲作曲〈トロメドレー〉を演奏しました。

プログラムの最後は、会場にいる全員で中川圭三作曲〈ぼよん行進曲〉を歌って踊りコンサートを終えました。



園児たちは私たちの問いかけに元気に応えてくれただけでなく、とても真剣に聴いてくれて嬉しかったです。
(金 悠雅・記)

学外アウトリーチ実習

西宮阪急

10月29日(日)西宮阪急3階プロモーションスペースにて『音楽によるアウトリーチ演奏会』を2部制で行いました。(第1部:11時 クラリネット・稲本渡(アウトリーチ教員)、ピアノ・山田詩織 第2部:14時 フルート・芦沢梨里沙、ピアノ・金悠雅・冨田萌絵・山田詩織)

第1部は、葉加瀬太郎作曲〈情熱大陸〉から始まり、〈クラリネット壊しちゃった〉で実際にクラリネットを分解して楽器紹介をしました。次に稲本響作曲、大河ドラマ『どうする家康』より〈メインテーマ～暁の空～〉を演奏しました。



そして、中島みゆき作曲〈糸〉、モンティ作曲〈チャルダッシュ〉を演奏しました。先生の指使いとクラリネットの美しい響きにお客様は釘付けでした。アンコールは、先方からのリクエストで〈すみれの花咲く頃〉を演奏しました。

今回伴奏として参加したことで、演奏はもちろん、音出しや進行を先生の間近で見学でき、多くのことを学ばせていただきました。

第2部では、まずエルガー作曲〈愛の挨拶〉を演奏し、ジブリ作品から『魔法の宅急便』より荒井由実作曲〈優しさに包まれたなら〉、『となりのトトロ』より4曲をメドレーで演奏しました。2部は家族連れが多く、子供が楽しそうに聴いてくれました。



次にマスネ作曲〈タイスの瞑想曲〉をフルートで演奏しました。

そして、アウトリーチ特別講師として来て頂いた斎藤守也さんが所属するピアノデュオ「レ・フルール」編曲の〈ディズニーランド®・メドレー〉をピアノ連弾で、最後に連続テレビ小説『あさが来た』より〈365日の紙飛行機〉を演奏しました。多くの人が知っている曲を積極的に取り入れ、通りすがりの方々に立ち止まって頂ける工夫をしました。

アンコールは1部と同じく〈すみれの花咲く頃〉を、ピアノとフルートで演奏しました。

今回の実習はお客様との距離が近いなど、幼稚園とは違う環境での実習で、新鮮な気持ちで挑みました。普段の実習先よりも、さらに地域の関わりを意識することができました。お客様の様々な反応を見ることができ、素晴らしい経験となりました。(山田 詩織・記)



学外アウトリーチ実習

西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園

11月2日(木)西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園(西宮市津田町3-40)にて園児・乳幼児を対象としたコンサートを行いました。(10時開演、出演者:フルート/芦沢梨里沙、ピアノ/金悠雅・富田萌絵・山田詩織)

テーマを「秋の音楽会」と題し、音楽で秋を感じられるようなプログラムを意識しました。

まず初めに挨拶の意味を込めてエルガー作曲〈愛の挨拶〉を演奏しました。続いて童謡〈山の音楽家〉を使って、歌詞に出てくる動物のお面をつけて楽器紹介をしました。音色や楽器の役割について説明すると、子どもだけでなく保護者の方も興味を持ってきている様子でした。次にレ・フレール編曲〈ディズニーランド®・メドレー〉をピアノ連弾で演奏しました。弾いていると子どもたちから「知ってる!」という声がたくさん聞こえてきて嬉しかったです。



次にスポーツの秋にちなんで、運動会でおなじみのオッフェンバック作曲《天国と地獄》をピアノ連弾、ネッケ作曲〈クシコス・ポスト〉をリレー連弾で演奏しました。リレーのように入れ替わり演奏すると、子どもたちが身をのりだし手拍子をしながら興味を示してくれていました。

続いて芸術の秋にちなんでクラシック曲を3曲演奏しました。1曲目はエステン作曲〈人形の夢と目覚め〉を演奏して身近なところにたくさんクラシック音楽が使われていることを伝えま

した。2曲目はゴダール作曲《3つの小品による組曲 op.11》より〈ワルツ〉、3曲目はリスト作曲〈メフィスト・ワルツ〉を演奏すると今日一番大きな拍手をいただきました。普段ホールで演奏するよりもお客さんの反応を近くで感じられて嬉しかったです。



次に食欲の秋にちなんで童謡〈大きな栗の木の下で〉を使って体を動かしました。音の大きさや速さにあわせて動きを変化させると凄く盛り上がり、楽しんで参加してくれていました。続けてもう1曲〈世界中のこどもたちが〉と一緒に歌って踊りました。この曲は知っている園児も多く、元気よく踊ってくれました。そして最後は全員で交代しながら〈トロメドレー〉を演奏しました。



アンコールでは〈ぼよん行進曲〉と一緒に踊り、楽しい雰囲気で行われることができました。今回の実習では子ども達との距離が近く、楽しそうな反応を間近に見ながら演奏することができとても楽しい時間でした。(富田 萌絵・記)

学外アウトリーチ実習

医療法人社団佳生会野木病院

11月18日(土)医療法人社団佳生会野木病院(兵庫県明石市魚住町長坂寺 1003-1)でデイケアを利用される方を対象としたコンサートを行いました。(フルート/芦沢梨里沙、ピアノ/金悠雅、富田萌絵、山田詩織)「Autumn Concert~ピアノとフルートの調べ~」と題し、秋らしいプログラムを意識しました。



まずは、エルガー作曲〈愛の挨拶〉で開演しました。続いてモーツァルト作曲〈きらきら星変奏曲〉を演奏しました。偶然にもこの日はしし座流星群が一番の見頃と言われていたので、そのことをMCで話したところ「今夜が楽しみ」と大変喜んでいただけました。

その後、ピアノとフルートの楽器紹介をして、フルートの速吹きで有名なコルサコフ作曲〈熊蜂の飛行〉を聴いていただきました。次に、荒井由実作曲〈やさしさに包まれたなら〉そして『となりのトトロ』より4曲メドレーを全員で交代しながら演奏し、ジブリの世界観を感じていただきました。



ここで雰囲気を変えて、岡野貞一作曲〈ふるさと〉を使ってアクティビティを行いました。途中で動きを変えるなどの工夫をし、会場の皆さんに楽しんでいただくことができました。

続いて「芸術の秋」にちなんでクラシック曲を3曲続けて聴いていただきました。(マスネ作曲〈タイスの瞑想曲〉、ショパン作曲〈ワルツ イ短調 遺作〉、ゴダール作曲〈3つの小品による組曲〉Op.11より〈ワルツ〉)

次に「スポーツの秋」にちなんでピアノ3人によるリレー演奏を行いました。ネッケ作曲〈クシコス・ポスト〉は昔から運動会でよく使われている有名な曲なので、知っている方も多くいらっしゃる様子でした。リレー連弾のあとは〈ラジオ体操第一〉をピアノの生演奏で行いました。私たちも一緒に身体を動かしてとても楽しかったです。続いてヨハン・シュトラウス作曲〈ラデツキー行進曲〉、レ・フレール編曲〈ディズニーランド®・メドレー〉をピアノ連弾で行い、会場の皆さんには手拍子で参加していただきました。

最後に、連続テレビ小説「あさが来た」の主題歌〈365日の紙飛行機〉を演奏してコンサートは終演しました。



会場は終始あたたかい雰囲気、最後には1人ずつに花束をいただき非常に嬉しかったです。

(富田 萌絵・記)

学外アウトリーチ実習

西宮市立鳴尾東幼稚園

12月7日(木)10時から西宮市立鳴尾東幼稚園(西宮市笠屋町 30-47)にて園児と教員、そして保護者の方々を対象に「冬の音楽会」を開催しました。出演は、「音楽によるアウトリーチ」履修生の芦沢梨里沙(フルート)、金悠雅(ピアノ)、富田萌絵(ピアノ)、山田詩織(ピアノ)の計4名です。

今回のコンサートでは、冬をテーマにした曲を集め、音楽を通して冬を味わっていただこうとプログラムを構成しました。



初めに、エルガー作曲〈愛の挨拶〉を演奏し、あたたかな愛の調べがこのコンサートの挨拶代わりとなりました。そして、フルートとピアノの知識を深めてもらうため、楽器紹介をしました。その後、レ・フレール編曲〈ディズニールランド®・メドレー〉を演奏し、歌や踊りも交えながら、文部省唱歌〈ゆき〉と、小林つや江作曲〈まつぼっくり〉を演奏しました。次に、クリステン・アンダーソン＝ロバース、ロバート・ロバース作曲〈アナと雪の女王メドレー〉を演奏しました。みなさんは口ずさんだり、手拍子をしたりと積極的に参加してくださっていました。

次にヴィヴァルディ作曲《四季》より〈ラルゴ〉とサン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》より〈フィナーレ〉のクラシック曲を2曲演奏しました。次に、中川ひろたか作曲〈世界中のこどもたちが〉を演奏しました。私たちの振付と一緒に踊ってもらうと、みなさんの笑顔も溢れて、と

ても楽しい空間でした。



そしてハチャトゥリアン作曲〈剣の舞〉を演奏しました。これまでの曲と違った曲調に、園児たちはいきいきとし、思わず体を動かしていました。次に、チャイコフスキー作曲〈くるみ割り人形〉より〈行進曲〉を演奏しました。そしてモーツァルト作曲〈きらきら星変奏曲〉、ドビュッシー作曲〈月の光〉を演奏しました。

最後は〈クリスマスメドレー〉で楽しくコンサートを締めくくりました。



終演後、みなさんが楽しそうな顔をしながら帰っていくのを見てとても嬉しく、私たちにとっても有意義な時間でした。(芦沢 梨里沙・記)

学外アウトリーチ実習

雲雀丘学園小学校

12月19日(火)雲雀丘学園小学校(宝塚市雲雀丘4-2-1)にて小学校4年生を対象とした授業形式のアウトリーチを行いました。出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生の芦沢梨里沙(フルート)、金悠雅、富田萌絵、山田詩織(ピアノ)4名です。「音楽の3大要素を知ろう」をテーマに、メロディ、ハーモニー、リズムについて学んでもらうことを目的としました。

まず初めに、フルートとピアノでE.エルガー作曲《愛の挨拶》を演奏しました。続いてA.ヴィヴァルディ作曲《四季》より《冬》ラルゴを演奏し、音楽の3大要素がそれぞれどのように曲中に組み込まれていたのかを説明しました。



次にC.ドビュッシー作曲《月の光》を用いて不協和音について解説し、実際に協和音と不協和音を聞いてもらいました。《月の光》に続いてA.ハチャトゥリアン作曲《剣の舞》を演奏し、不協和音は不気味な印象を持つものの、曲中に取り入れるとインパクトや響きに深みをだせることを説明しました。



続いて《雲雀丘学園歌》を短調やジャズ風にアレンジし実際に生徒たちに歌ってもらうことで、知っている歌がどのように変化するのを実際に感じてもらいました。

次のアメリカ民謡《幸せなら手をたたこう》では変化するリズムに合わせて手を叩くアクティビティを取り入れました。音楽教諭の岡村先生に歌っていただいたことで、生徒たちはより楽しそうにアクティビティに参加してくれました。



次にW.A.モーツァルト作曲《きらきら星変奏曲》ではまず変奏曲について説明し、主題となるメロディがどのように変わるのかに注目して聞いてもらいました。



その後のサン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》では、曲中に何の動物が出てきたのかをクイズにし答えてもらいました。

最後に全員で《クリスマスメドレー》を演奏し授業を終えました。授業形式のアウトリーチは初めてでしたが、積極的に取り組んでくれる生徒たちのおかげでとてもよい時間を過ごすことができました。(金悠雅・記)

アウトリーチ 22 期生（23 年度履修生）からのメッセージ



芦沢 梨理沙
(フルート)

履修前は、アウトリーチがどういうものかよく分からずにいました。しかし、授業で学んでいくにつれてアウトリーチについて深く学びを得ることができ、自分自身の成長にも繋げることができたと考えます。自分たちで 1 からコンサートをつくりあげていくのは、簡単なことではなく多くの困難がありましたが、コンサートを終える度に大きな達成感や満足感がありました。アウトリーチは、社会に出てからも活かせる知識が多くあると感じたので、学んできたことを思い出しながら日々を過ごしていきたいです。ここまで多くの方の支えがあったからこそ、実習でしかできない貴重な経験をさせていただけたと感じているので、関わってくださった皆さまにはとても感謝しています。



富田 萌絵
(ピアノ)

試験やコンクールなど点数の為ではなく、楽しく演奏できる機会になればよいなと思ったことがきっかけで履修しました。実際に始まると季節や年代にあわせて様々な曲を用意したり、司会やプログラム作成などやるべきことが沢山あって忙しかったですが、お客様の反応を近くで感じられて凄くやりがいを感じました。又、3 年生や 4 年生になると授業が減って友人とも会う頻度が減ってしまった為、アウトリーチメンバーで集まって練習をすることは大学に来る 1 つの楽しみになっていました。教職課程もとっていたので履修を迷っていましたが、今では履修してよかったと心から思っています。



金 悠雅
(ピアノ)

アウトリーチと従来のコンサートとの 1 番の違いは、聴き手が必ずしも音楽を好きな人ではないということです。音楽に興味のない人や、偶然その場に居合わせただけの人など、多種多様な聴き手から関心を持ってもらうにはどのような工夫が必要かたくさん考えました。演奏者自身が進行係となり聴き手と直接コミュニケーションをとること、時にはアクティビティを行うことで両者が一体となれるアウトリーチは、音楽を学ぶ意義を強く感じる時間でした。



山田 詩織
(ピアノ)

アウトリーチの授業では、色々な場所や環境での演奏機会があり、沢山舞台経験を積めると共に、自分達でプログラムや進行を考え、演奏会をつくりあげるといって、とても貴重な経験が出来ました。初めは曲を決めるだけで精一杯で、プログラムの制作にとても時間がかかりました。しかし、回数を重ねるにつれて、聴いてくださる方にどうすればより楽しんでもらえるか、どんな演奏会が聴きたいか、みんなで話し合いながら進めていくことができました。演奏会の途中でも、お客様の反応によって司会の内容や進行の仕方を臨機応変に変更できるようになったり、自分達の成長を感じることもできました。3年生の講義と4年生の実習で沢山のことを学べて、本当によかったと思います。

「音楽によるアウトリーチ（講義）」履修生（3年生25名）

【ピアノ】

馬場 彩、苅屋 知絵梨、笠木 美咲子、岸本 杏、
松永 理来、三野 杏紗、中島 優羽、鬼塚 美瑠紅

【声楽】

石田 桜子、工藤 万李花、武生 采子、脇田 彩名、安田 りか

【ヴァイオリン】

三橋 雅瑚、山本 寧々花

【フルート】

倉永 真理、清水 萌花

【クラリネット】

増沢 千沙都

【バスクラリネット】

小野 千夏

【ホルン】

武田 沙也香

【トランペット】

大川 紗季

【トロンボーン】

龍 咲良

【サクソ】

天海 和

【オルガン】

村田 沙耶

【ミュージック・クリエイション】

佐々比香莉

講師 谷田 奈央

～ エレガノー西宮アウトリーチ実習の様子～



2023 年度 実習歴

- 6月 6日(火) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
- 7月 1日(土) 子どものための七夕コンサート(シリーズ第64回)
- 8月 6日(日) 宝塚阪急アウトリーチ
- 10月14日(土) 子どものためのスペシャル・コンサート(シリーズ第65回)
- 10月19日(木) 西宮市立浜脇幼稚園アウトリーチ
- 10月29日(日) 西宮阪急アウトリーチ
- 11月 2日(木) 西宮市立子育て総合センター附属あおぞら幼稚園アウトリーチ
- 11月18日(土) 野木病院アウトリーチ
- 12月 7日(木) 西宮市立鳴尾東幼稚園アウトリーチ
- 12月 9日(土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第66回)
- 12月19日(火) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ
- 1月19日(金) スミリンケアライフ株式会社エレガノー西宮アウトリーチ(3年生)
- 2月22日(木) くるみ幼稚園アウトリーチ
- 3月 6日(水) 芦屋市立宮川幼稚園アウトリーチ
- 3月 9日(土) 西宮阪急アウトリーチ
- 3月23日(土) ふれあいコンサート 甲東小学校 (予定)
- 3月30日(土) 第12回わくわく!そうぞう!たからまつり ガーデンコンサート (予定)



音楽をお届けします



「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
ホールや劇場といったコンサート従来の枠にとらわれずに、
社会のさまざまな場所にすてきな音楽プログラムをお届けします。

幼稚園・小・中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、子どもたちに楽しい音楽体験を！
病院や美術館へ：催しの趣旨に合わせた音楽プログラムを、心を込めてお届けします。

お問い合わせ

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (火～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

